

鳳凰 资讯

本年 42 万トンの『キョンシー肉』を押収 一部は第二次大戦の備蓄品

凤凰网 news.ifeng.com 2015-07-05 03:25 来源: 央视

キャスター: いま、密輸冷凍肉『キョンシー肉』の話題が注目を集めています。税関総署は、今年初めに冷凍製品を中国国内における重点物品として、集中的に特に取締を強化しています。全国の海関は、6月23日までの時点で、42万トンの密輸冷凍製品を押収していますが、特に広東省や広西省、天津などの沿海地区で発覚した事案は数億元に値し、時には数十億元の大型事案もありますが、このような密輸冷凍製品には、牛肉や鶏肉、豚肉などの冷凍肉製品、その他にもサケやギンダラなどの海産物も含まれており、多くの冷凍製品が品質保証期限切れで腐敗や変質していました。また、第二次大戦の頃に一部国家で戦略備蓄されていた冷凍製品もあるとのことでした。

今回は、特に私たちが自分の年齢より古い密輸冷凍肉とその背後にある利益の連鎖に注目してみます。先日、雲南省普洱の辺境防衛支隊と江城大隊が連続して押収した2件の密輸冷凍製品事案では、計420トン超の密輸冷凍製品、車両15両が押収されています。また、その前には、雲南普洱辺境防衛支隊瀾滄大隊が取り締まった大型密輸冷凍肉製品事案で330トンが押収され、500万元超のものとなりました。

雲南省の警察サイドは、これまでに数十件の冷凍品の密輸事案を取り締まり、そこから、雲南省内の冷凍製品の密輸ルート2本が明らかになりました。一つは、西双版纳(シーサンパンナ)を経て普洱辺境一帯で荷積みをし、その後瀾滄や景谷、寧洱、墨江を経て最後は昆明に至るもの；もう一つは、荷積みの後に江城、墨江を通り昆明に至るものでした。

狂気じみた冷凍製品の密輸は、雲南省で見つかったのみならず、広東省でも見つかっています。6月中旬には、深圳市が全国で最大規模の冷凍肉密輸事案を取り締まりを行い、問題冷凍肉6117トンが押収され、その価値は3.45億元となりました。赤身肉エキスをサンプル抽出してみたところ、一部の冷凍肉が2013年に品質保証期限を過ぎているのが判りました。

本年3月、市民通報情報を基に、深圳市市場捜査局の法執行官が同市龍崗区平湖街道にある嘉鳴会社の倉庫から密輸入された大量の冷凍肉を発見しています。

深圳市市場捜査局の呉兵局長: 3月19日の夜明け前、突然こっちのほうに広西ナンバーの車両が、5両やってきました。そのうえ内部には照明がともされていて作業中だということが判りました。

解説: 当該執行官が嘉鳴会社にやって来た時、この捜査対象の会社では多くの従業員がまさに5台のトラックから中文表示のない冷凍肉を荷降ろしている最中で、変だなと思いました。彼らの一班は積み下ろしを、もう一班は冷凍肉の外装箱を交換していました。この異常な挙動は、法執行官をして更に怪しいと思わせたのです。

深圳市市場捜査局 温桂華: おい、あれを見てみる。本来の輸入肉価格は国産の肉より高価なんだ、なぜ国内の包装に交換しているのだ？ きっと、これは法執行官の検査を逃れるためのものぞ。

解説: 我が国では輸入冷凍肉には厳格な規範要求があり、輸入冷凍肉には必ず税関の輸入通関書が必要で、更に輸入の際の検疫報告書や、中文のラベルや表示が必要となり、冷凍肉の生産地や生産日時、保証期間、保存条件、工場の登録ナンバーや製品のロット番号など関連情報が明示されていなければなりません。このような輸入冷凍肉は、そうして初めてマーケットでの販売が可能となるのです。ところが、このような輸入冷凍肉は何らの手続きもされておらず、中文のラベルや表示が一切ないのに、外箱には、『広西東興百事心食品有限公司』と書かれていました。製品のパッケージを交換する目的は、人々の耳目を欺き、管理監督を免れる為でした。種々の形跡から、この嘉鳴公司という倉庫会社には、密輸入した冷凍肉を貯蔵販売している重大な嫌疑があるといえます。その後、法執行官が嘉鳴公司に入り検査を行いました。この検査では難なく6000トン超の問題の冷凍肉を押収しました。この事案は、我が国最大の密輸冷凍肉事案となりました。

温桂華: 私たちの捜査は15日かかり、合計6117トンの押収となりました。

解説: 6100トン超の冷凍肉は推定換算額で3.45億元となり、主要な品種は牛肉や豚肉並びに鶏肉とその製品ですが、それ以外にもアヒル肉やガチョウ肉、羊や馬、鱈等の製品もあり、主に米国やブラジル、フィンランド、ドイツなどから来たものでした。

劉海華：彼らの包装箱には品種や産地、生産日時等一つも書かれてはいません。商品名が書かれているだけです。我々は、倉庫で大量の鶏の足を見つけましたが、アメリカのものやブラジルのものもありました。その他にも、羊の骨、ほら、これには、中文の表示は何もなく、簡単なビニル袋に入れられているだけでしょうか？

記者：そこには、生産日時がありますか？

深圳市市場捜査局 劉海華：ないですね。パッケージ見た？ パッケージを開けてみればすぐでないことが判りますよ。

解説：法執行官達がさらに調査をして発見したことは、これらの冷凍肉には合法的な出どころがなく、酷いものでは、期限切れの問題肉もあるということです。

劉海華：これは、期限切れの製品ですよ。

記者：一般的に言ってこのようなものなんでしょうか、品質保証期間はおよそどのくらい？

劉海華：一般的には**1年か2年**といったところでしょう。もし**12月に1年**となるものであれば、既に期限切れですよ。

解説：特別捜査班がこの**6100** トン超の冷凍肉を**1**ロットごとに全て調査し、抜き取り検査をし、食品検査試験部門に送って検査をしたところ、一部から有害物質も検出されました。

呉兵：私たちは、今回**798** ロットを検査に出したのですが、今のところ**87** ロットから結果が得られており、いずれも赤身肉エキスが含有されていました。

キャスター：このほかに、先に南寧市の警察が密輸冷凍製品を捜査押収した際に、鶏の足のパッケージ袋に印刷されていた包装日付には**30~40** 年前のものがあり、その中で最も古い包装日時は**1967** 年のものでした。広西自治区で密輸摘発をしたある民警の警察官は、それ以前には**第二次大戦期**に一部の国が**戦略備蓄物資**としていた冷凍製品が密輸入されていたと語っています。情報によると、牛肉羊肉等冷凍製品の品質保証期間は、国内の一般規定では**8~12** か月ですが、ある国では保存期間が**2** 年以上に達しているところもあり、一部国家では戦略的備蓄のニーズから超長期間保存されるものもあるようです。広西省の密輸撲滅民警は、少なからぬ密輸牛肉が西洋レストランに入っており、品質が比較的良いものは一切れあたり僅か**300~500** 円で高級西洋レストランに入っていると語りました。ネットショッピングのプラットフォームもまた、違法輸入冷凍製品の集散地となりつつあるのです。たとえば、ネット上で『冷凍鶏足』で探せば、**100** もの売り手が現れ、ある売り手は輸入食品には中文ラベルがあり、食品安全法の要求に合致していると言いながら、僅かな売り手しか生産許可証番号を提供できず、産品標準ナンバーが重要な情報となるのに、殆どは連絡先電話番号しか提供せず、酷いものでは工場情報を提供していません。よって、これらが合法か否か、食用できるか否か、何とも言えません。

冷凍品輸入がこれ程おかしくなっている原因は何なのでしょう？ 密輸撲滅の民警が、計算をメモしてくれました。ブラジル牛肉は、一般に密輸価格はキロ当たり**25** 元前後であるのに対し、国内牛肉の販売価格は既にキロ当たり**50** 元、更に高いものもあるそうで、**1** トンの密輸で**2万~3** 万円の利益を得られるのだそうです；**1** トンの冷凍鶏足の輸入価格は**4000~5000** 円で、解凍や加工を経て包装加工の後、**1** トン当たり**2** 万円で売れますので、簡単に**1** 万元以上の利益があがることになるのです。

私の看るところでは、利益が上がるのが密輸の絶えない重要要因となっており、何をすればそれを遮れるのでしょうか。密輸された冷凍肉が私たちのテーブルに乗ることが問題なのです。中国農業大学食品学院の朱毅副教授の看方を聞いてみたいと思います。

中国農業大学食品学院副教授 朱毅：大規模な宣伝を行い、消費者に正しい認識をして戴きたいものです。「安くてうまいものが遠路遙々やってきて中国人の胃を満足させてくれる」、そのような『棚から牡丹餅』のような考えに陥る恐れがあります。これらの来歴不明で、正体を隔され、どこから来たのかわからないような密輸肉は、外国から入ってきており真っ当なルーツもなく、こそ泥たちが暗躍する路上で、密輸犯達が食品安全に沿った良い運送規範を遵守していることは到底望めません。それゆえに、大きな事故が起きていないのが幸いですが必ず問題は出てきます。それは時間の問題だと言えます。管理監督部門からすると、一旦市場に流入したり、バラバラに分解されたりしてしまえば、うわべが変わり、もう見分けがつかなくなるのです。ですから、根元を検挙すると同時に、社会みんなが退治するという局面を形成し、この様な出どころ不明の密輸肉を見かけたら皆さんが通報するようにしなければなりません。

http://news.ifeng.com/a/20150705/44104224_0.shtml

..... 以下は中国語原文

内地今年已查证 42 万吨“僵尸肉” 部分系二战储备品

凤凰网 news.ifeng.com 2015-07-05 03:25 来源：央视

主持人：近来关于走私冻肉“僵尸肉”的话题格外吸引人眼球。海关总署今年初部署包括冻品在内的重点商品物品开展集中专项打击。**截至 6 月 23 日，全国海关共查证走私冻品 42 万吨，特别是在广东、广西、天津等沿海地区履破案值数亿，甚至数十亿元的走私冻品大案，这些走私冻品包括牛肉、鸡肉、猪肉等冻肉品，还有三文鱼、银鳕鱼等海产品，不少冻品因为超过保质期腐坏变质，而有一些甚至是二战时期一些国家为战争储备的冻品。**

今天特别关注，我们就来关注一下这些年龄比我们还要大的走私冻肉和它们背后的利益链条。

近日，云南普洱的边防支队江城大队连续查获了两起走私冻品案件，共查获走私冻品 420 多吨，查扣的车辆 15 辆。另外，此前，云南普洱边防支队澜沧大队就曾经查获过一起特大的走私冻品案，该案共查获冰冻肉制品 330 吨，案值约 5 百余万元。

云南警方根据目前破获的数十起冻品走私案件，总结出了两条云南境内的走私冻品的路线，一条是由西双版纳，普洱边境一带装货，然后绕到澜沧、景谷、宁洱、墨江，最后到昆明；另一条线则是装货之后走江城、墨江，然后到昆明。

疯狂的冻品走私，不仅是出现在云南，还出现在广东。上月中旬，深圳市公布破获了一起全国案值最大的走私冻肉案，6117 吨问题冻肉，货值 3.45 亿元，样品抽检出瘦肉精，部分冻肉 2013 年过了保质期。

今年 3 月，根据群众举报的线索，深圳市市场稽查局执法人员发现，位于深圳市龙岗区平湖街道的嘉鸣公司的仓库里，储存了大量涉嫌走私的进口冻肉。

深圳市场稽查局局长 吴兵：在 3 月 19 日那天，正好凌晨，一下突然来了这边，就是有 5 部从广西牌照的车进来，进了这个场地，而且里面是灯火通明在工作。

解说：当执法人员来到嘉鸣公司时，看到涉案公司大批员工正从 5 辆集装箱货车上面搬下大量没有中文标签的冻肉，令人感到奇怪的是，他们一边卸车，一边更换冻肉的外包装。这个不同寻常的举动更让执法人员觉得可疑。

深圳市场稽查局 温桂华：你看看，本来进口肉的价格比国产肉就贵了，他为什么换成国内的包装，肯定是要逃避执法人员检查了。

解说：我们国家对进口的冻肉有严格的规范要求，进口冻肉要有海关的入关单，还要有进口检验检疫报告单，还要贴好中文的标签、标志，标明冻肉的生产产地、生产日期、保质期、保存条件、注明工厂注册号、产品批号等相关的信息，这样的进口冻肉才能在市场上销售。可是，这些冻肉却没有任何手续，也看不到任何中文标签、标志，被换上的外包装上写的是，“广西东兴百事心食品有限公司”，更换产品包装的目的，是掩人耳目，逃避监管。种种迹象表明，这家仓储企业嘉鸣公司存在储存销售涉嫌走私冻肉的重大嫌疑。随后，执法人员对嘉鸣公司走个仓库逐个进行了检查，这一查不要紧，竟查获了六千多吨问题冻肉，这起案件成为目前我国最大的一起走私冻肉案件。

温桂华：我们的清算整整用了 15 天，总共清算了 6117 吨。

解说：据测算，这 6100 多吨冻肉货值 3.45 亿人民币，主要品种是牛肉、猪肉和鸡肉及其制品，此外，还有鸭肉、鹅肉、羊肉、马肉、鳕鱼等产品，主要来自美国、巴西、芬兰、德国等国家。

刘海华：这种你看它的包装就写了一个品种、产地、生产日期都没有，就写一个产品。我们在仓储里面发现了大量的鸡爪，由美国的，有巴西的。这是羊骨，你看这里面，也没有任何中文的标别，就是简单的一个塑料膜一包。

记者：这个有生产日期吗？

深圳市场稽查局 刘海华：也没有，见包装吗？打开包装一看没有。

解说：执法人员进一步调查发现，这些冻肉不仅没有合法的来源，甚至还有一部分是过期的问题肉。

刘海华：这是过期的产品。

记者：一般来说像这样的，它的保质期是多长时间？

刘海华：一般要么是一年，要么是一两年。12 月份如果是一年的话，就已经过期了。

解说：专案组对这批 6100 多吨的冻肉，每查一批，抽检一批，送到食品检验部门检测，有一部分还检出了有毒有害物质。

吴兵：我们这次总共送检了 798 批，目前查出来有 87 批，都是有含瘦肉精。

主持人：另外，此前南宁市警方在查获一批走私冻品的时候发现，其中一些鸡爪的包装袋上印制的包装日期竟然是三、四十年前的，其中十分最长的包装日期，显示封存于 1967 年。**广西一名打私的民警说早年还有二战时期一些国家为战争储备的冻品走私入境。**据我们了解，对牛羊肉等冻品的保质期，国内规定一般是 8 到 12 个月，有的国家保存的时间达到两年以上，也有一些国家作为战备需要，超长期存放。

这些问题冻肉走私进入我国境内之后，会流到哪去呢？从珠三角等地海关缉私部门稽查的情况来看，当地的走私

冷冻肉产品，大部分是销往北方地区，主要对象是肉类加工厂、酒楼、机关及学校的食堂、肉食店、小吃摊等等。

广西打私民警介绍，不少走私牛肉进入了西餐厅，尤其一些品质较好的会卖到高档西餐厅，一小片就要三、五百元。

而网络购物平台也日渐的成为了非法入境冻品的集散地了。比方说，在网上搜索“冷冻鸡爪”就会出现上百个卖家，有的卖家虽然声称，进口食品加贴中文标签，符合食品安全法的要求，但是仅有少数卖家提供生产许可证编号，产品标准号关键信息，大多数只提供联系电话，甚至不提供厂家的信息，所以这些抽到底合不合法、能不能吃，还真不好说。

冻品走私如此疯狂的原因是什么呢？缉私的民警给我们算了一笔账，巴西牛肉，一般走私的价格为每公斤 25 元左右，国内牛肉的售价已经达到了每公斤 50 元，甚至更高，走私一吨可获利 2 到 3 万元；而一吨冷冻鸡爪的进货价仅为 4000 到 5000 元，经过解冻、加工、包装之后，一吨的售价高达 2 万元，可以轻松的获利 1 万多元。

看起来，利益的驱使是冻品走私屡禁不绝的重要原因，有什么办法能够截住，问题走私冻肉走向我们的餐桌，我们来听一下，中国农业大学食品学院的副教授朱毅的观点。

中国农业大学食品学院副教授 朱毅：希望这一次大规模的宣传，能够让消费者真正认识到，价廉又物美的东西不远万里来满足中国人的胃，这些“天上的馅饼”自然就有是陷阱的可能。这些来路不明、躲躲藏藏、艰辛曲折跑来的走私肉，不会因为从外国来就根红苗正了，在那个颠簸偷摸的路上，不可能指望私贩子严格遵守食品安全的良好运输规范，所以不出大事是侥幸、出事是必然，这是一个时间问题。对于监管部门来说，一旦流入市场、化整为零以后，改头换面就认不得了，所以只有从源头上抓起，同时形成社会共治的局面，只要看到有这样不明身份的走私肉，大家都一起来举报。

20150705A 本年 42 万トンの『キョンシー肉』を押収 一部は第二次大戦の備蓄品(鳳凰網)